

# 第1部(人文・社会科学) の視点からの個人的見解

2018年12月13日CSTI木曜会合

学習院大学 遠藤 薫(社会学)

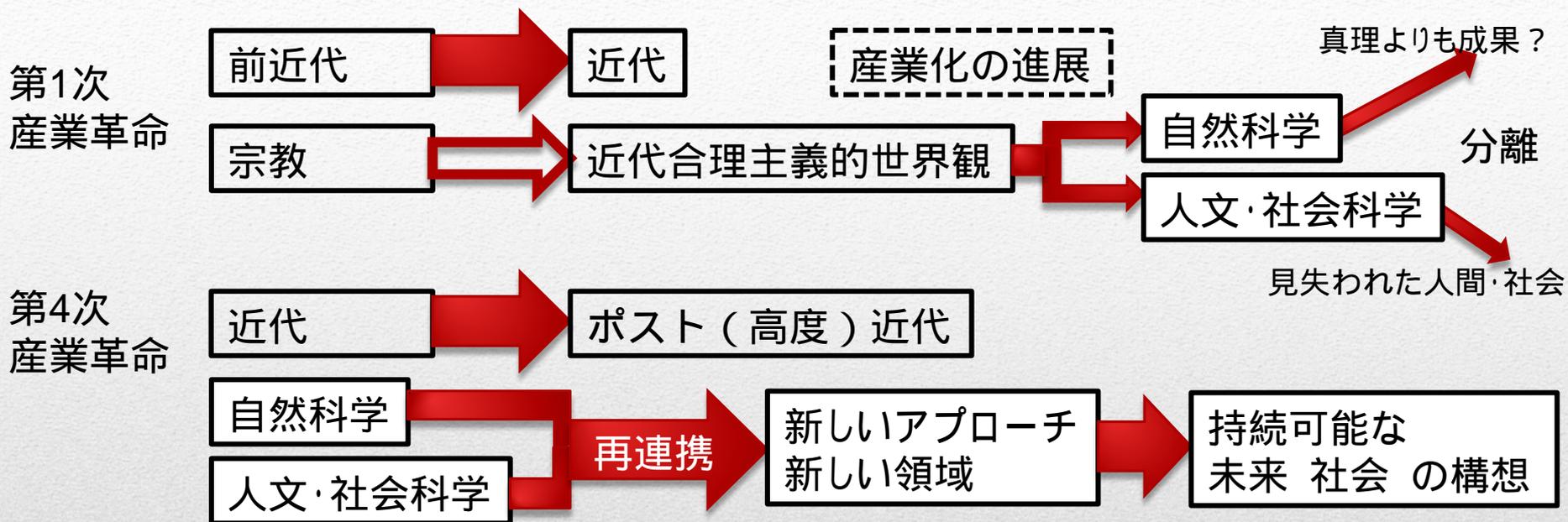
---

- 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業  
「リスク社会におけるメディアの発達と公共性の構造転換～ネットワーク・モデルの比較行動学に基づく理論・実証・シミュレーション分析」
  - 社会学グループ(代表:遠藤)
  - 経済学グループ
  - 情報科学グループ
- 未来社会創造プロジェクト(探索研究)  
「構想駆動型社会システムマネジメントの確立」
  - 社会学グループ(代表:遠藤)
  - 情報工学グループ
  - 制御工学グループ
  - システム・マネジメントグループ
  - …

## 自己紹介(最近の大型研究プロジェクト)

2

# なぜなら、現代は人類史上の大転換期



過去と未来をつなぐ「社会ビジョン」を構想・創造する人文・社会科学

人文・社会科学ぬきに社会の転換はあり得ない

日本はこのことを認識 世界に先駆けて「**Society 5.0**」

しかし、現時点では「**Society 5.0**」(未来社会ビジョン)の内容は不十分

## いま、人文・社会科学に注目

3

- 人文・社会科学者の高い専門性・厳密性・意欲
- 社会的評価は不十分 / 少ない予算
- 査読・審査・競争資金を意識した分野の研究に偏る傾向

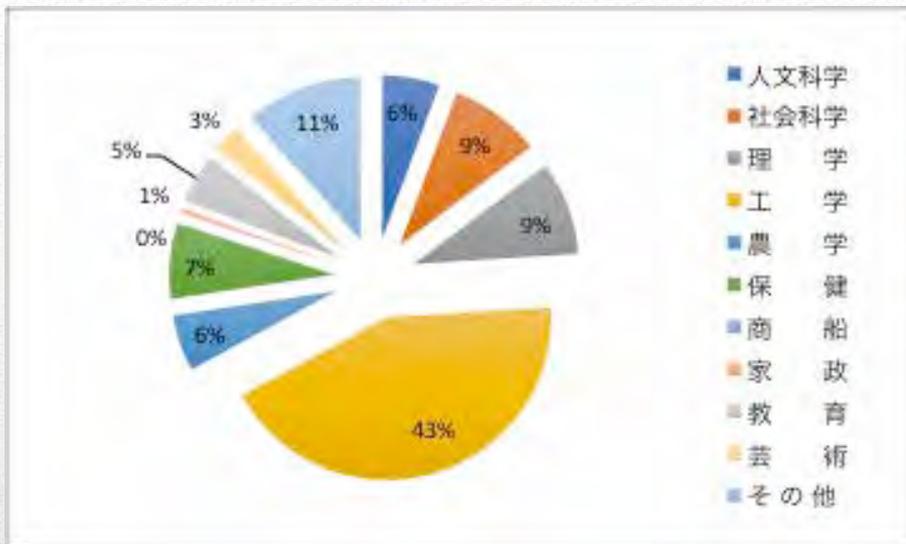


- 大学院進学者の減少
- 大学院進学後のキャリアパスの不透明性



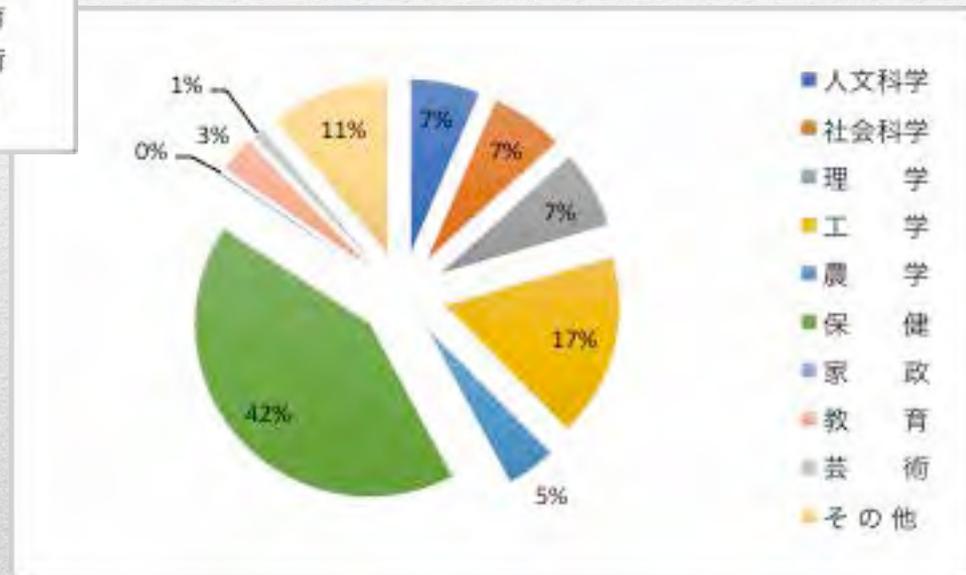
- 国際発信の伸び悩み
- 日本からの留学生の減少
- 留学生比率の過大化

# 日本の人文・社会科学の現状

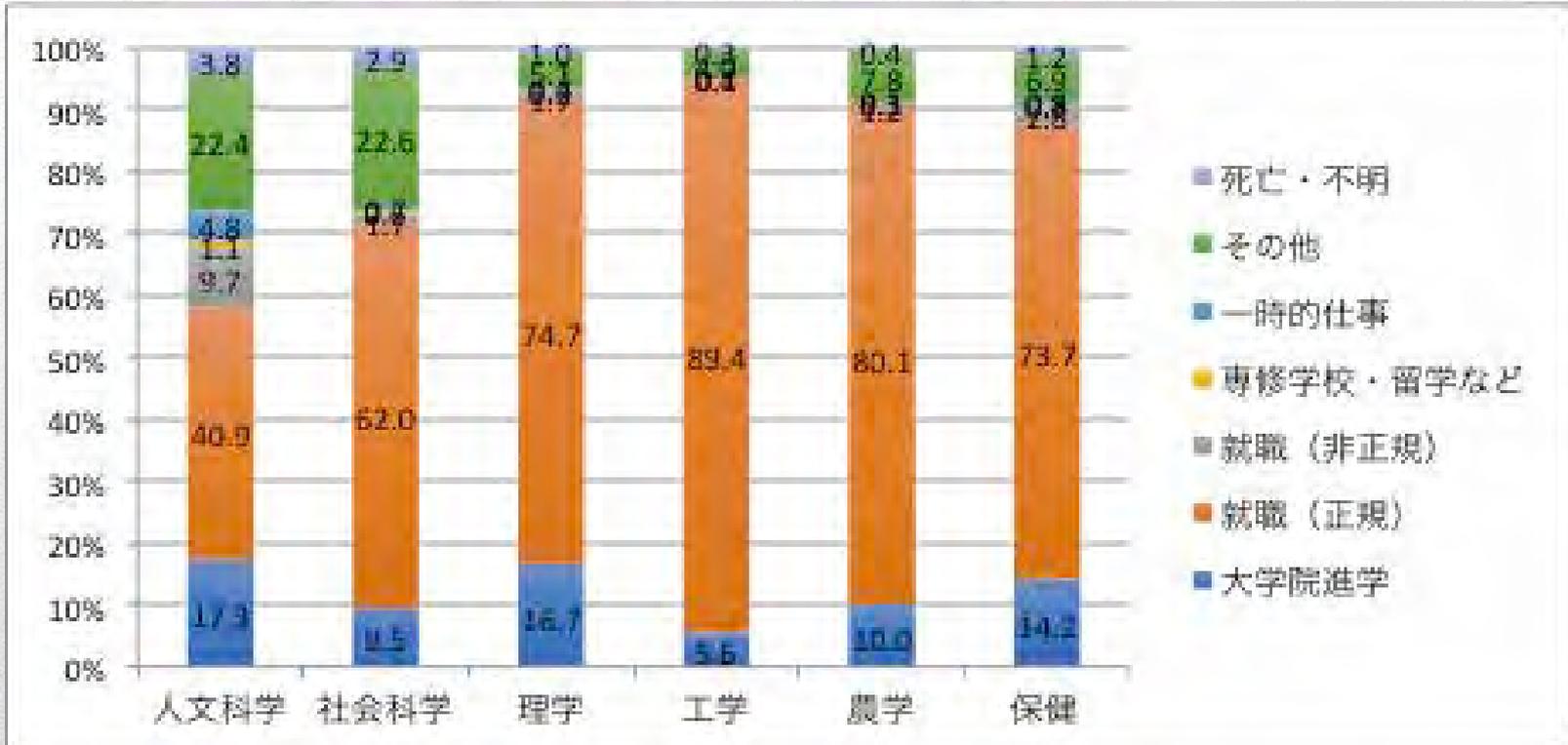


大学院修士課程の専攻分野別入学状況  
(平成30年度文科省『学校基本調査』より遠藤作成)

大学院博士課程の専攻分野別入学状況  
(平成30年度文科省『学校基本調査』より遠藤作成)



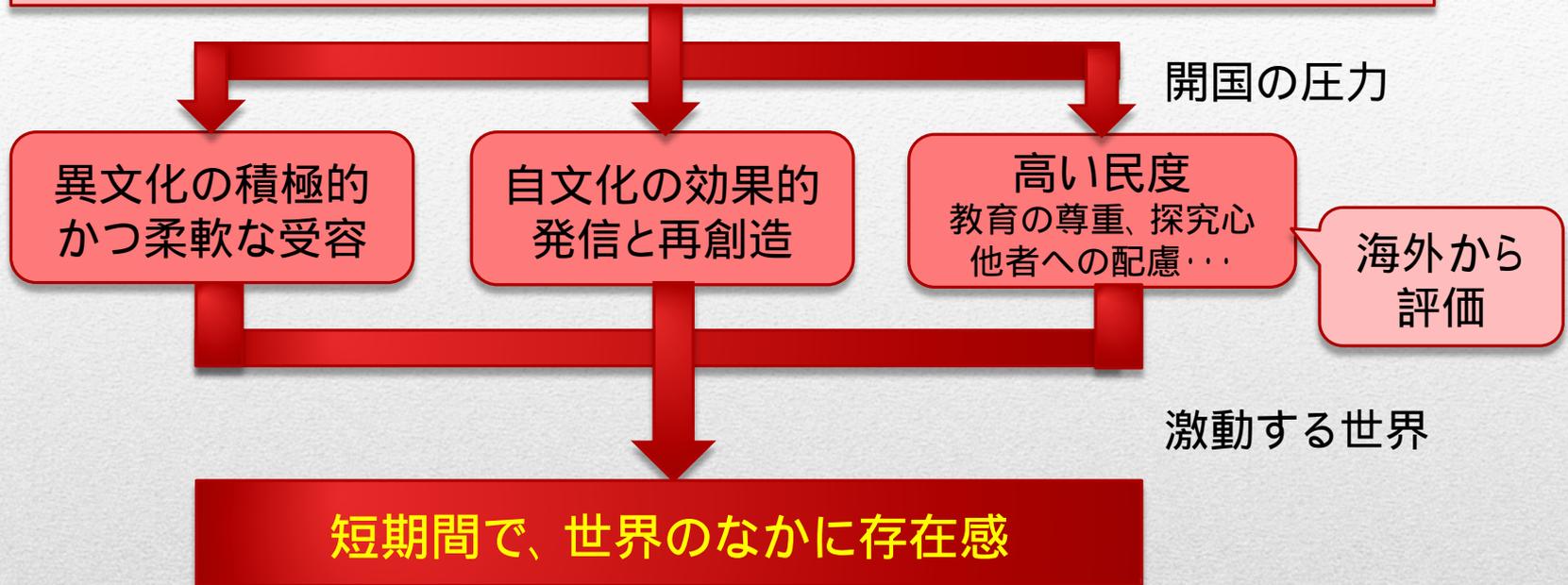
# 日本の人文・社会科学の現状



大学院修士課程の専攻分野別修了者状況  
 (平成30年度文科省『学校基本調査』より遠藤作成)

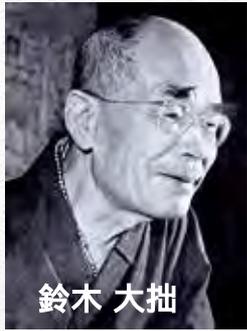
# 日本の人文・社会科学の現状 6

近世における全国各地の中間知識層の形成と 知のネットワーク  
長期にわたって潜在的に 近代を準備



Case: 日本は19世紀の大  
転換をどう生き抜いたか？

7



鈴木 大拙



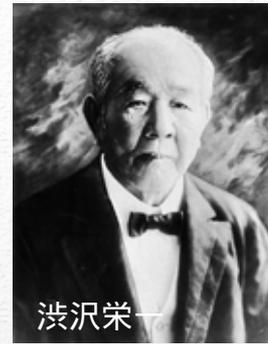
和辻哲郎



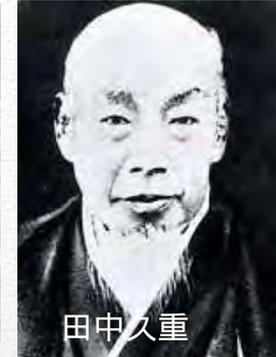
柳田國男



南方熊楠



渋沢栄一



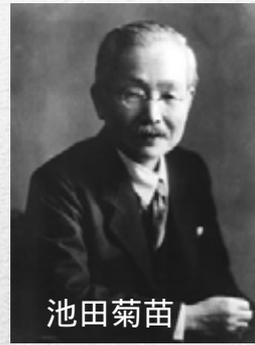
田中久重



西田幾多郎



夏目漱石



池田菊苗



豊田佐吉



服部金太郎



福沢諭吉

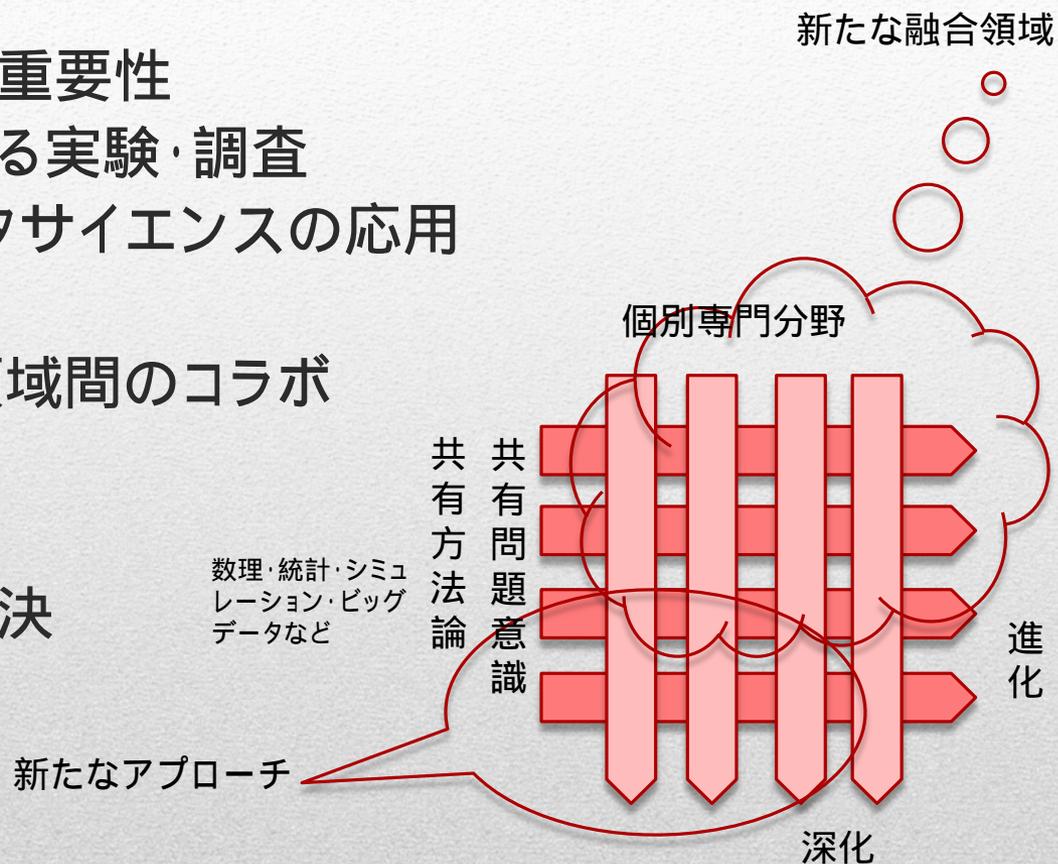
基礎研究  
力!

【共通点】 文理をまたぐ視点  
時間を超える普遍知の追求  
日本 をふまえつつ国境を  
超える  
多くは地方中間層の出身

新時代を拓いた 知 は、  
\* 近世に準備された蓄積  
\* 個人の自由闊達な探究心  
\* 柔軟な社会的バックアップ  
から花開いた

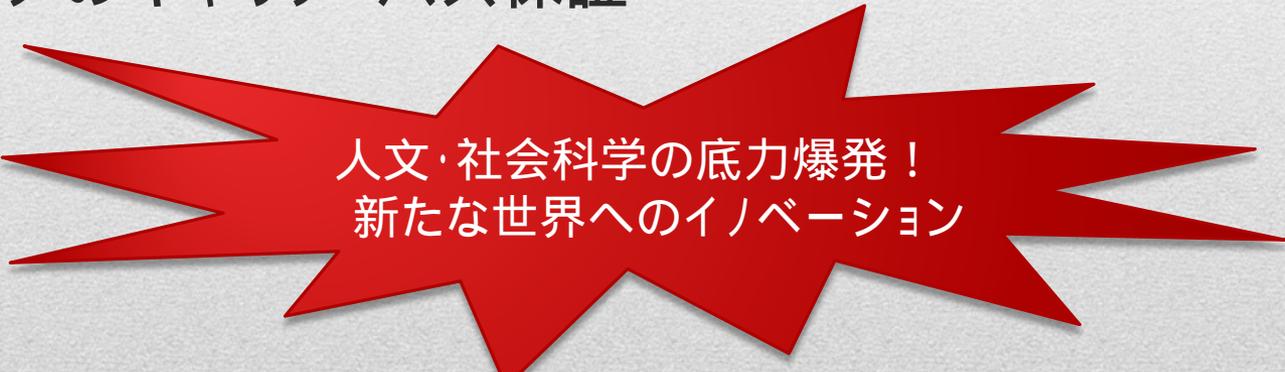
# 日本の近代化を担った人びと

- 進化・深化する個別領域
- 大規模アーカイブスの重要性
- 人文・社会科学における実験・調査
- 数理・計算科学・データサイエンスの応用
- 人文・社会科学個別領域間のコラボ
- 文理のコラボ
- 新たな課題の発見・解決
- 新たな領域の創造



# いま、人文・社会科学の新段階 9

- 個々の研究者による自由な創造的研究を伸ばす
- 安定した研究予算とポストの確保
- 大学の「選択と集中」ではなく、旧帝大、地方大学、私大を包摂する研究の有機的ネットワークを
- 人文・社会科学にも大型予算が必要
- 新しい領域・学際領域・融合領域に大胆な予算支援を
- パラ・アカデミアのキャリア・パス保証

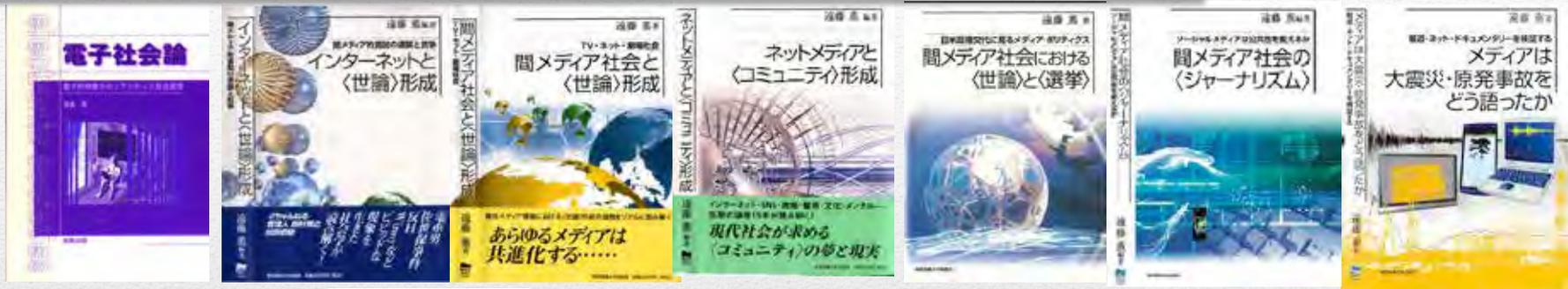
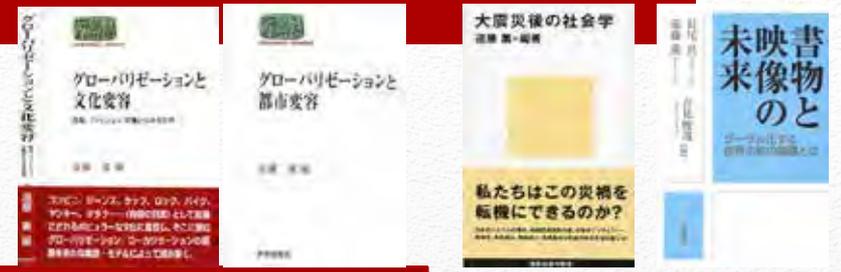


人文・社会科学の底力爆発！  
新たな世界へのイノベーション

# 必要な基礎研究強化政策

10

# 主な拙著



日本近世・近代における国家意識の形成とアジア諸国  
遠藤薫・編著  
勁草書房(近刊)



重版出来!

重版出来!

横幹〈知の統合〉シリーズ創刊! 横幹〈知の統合〉シリーズ創刊! 横幹〈知の統合〉シリーズ創刊! Society 5.0への提言